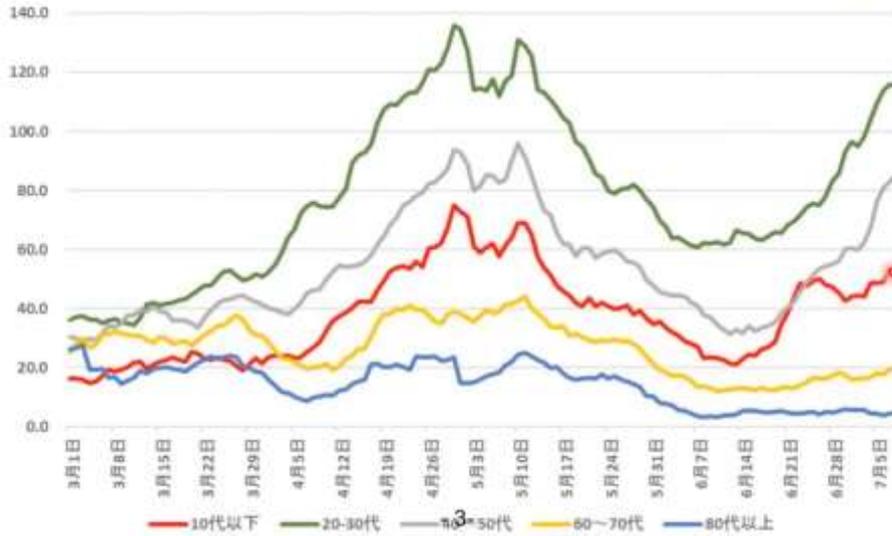


新型コロナウイルス感染症の今後の見通しについて

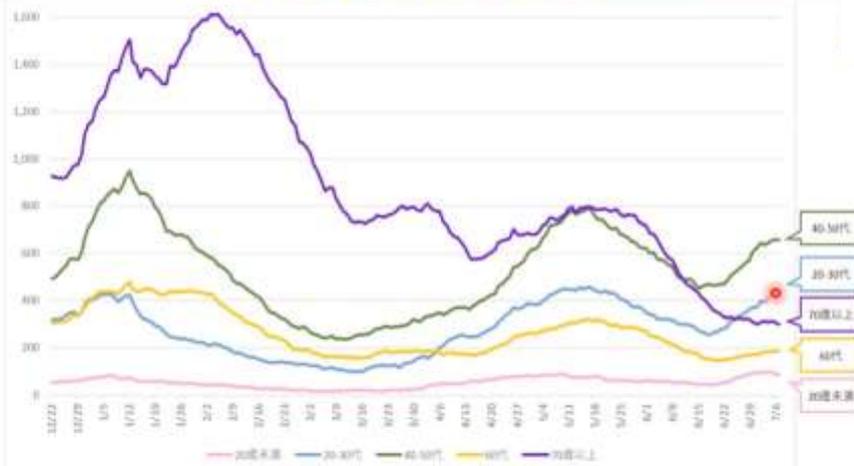
新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードの資料から（7/14 付け）

資料3-6

東京都年代別新規陽性者数（七日間移動平均）の推移
＜接触歴あり＞（3月1日～7月8日）



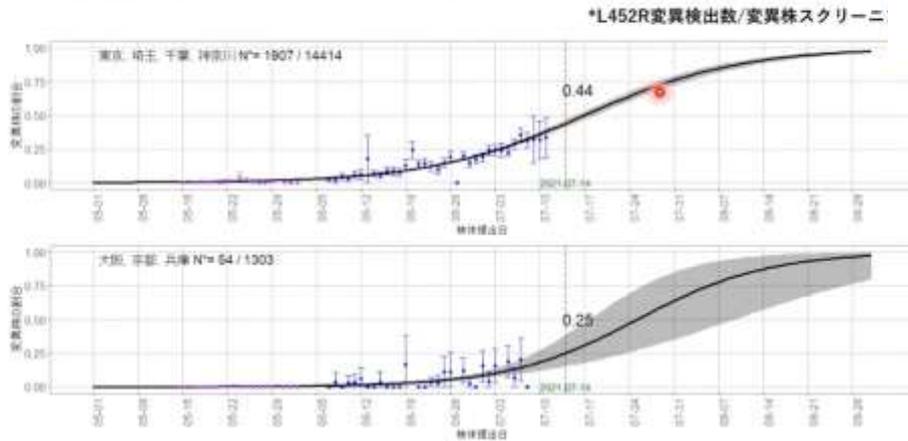
東京都 入院患者数の年代別内訳



日付	12/22火	1/1金	2/1月	3/1月	4/1木	5/1土	6/9水	6/16水	6/23水	6/30水	7/7水
入院患者総数	2,063	2,730	2,899	1,863	1,462	2,019	1,626	1,346	1,301	1,553	1,673
うち60歳以上	1,235	1,556	2,029	1,231	965	948	748	579	481	481	485
割合	59%	57%	70%	74%	66%	47%	46%	43%	37%	31%	29%

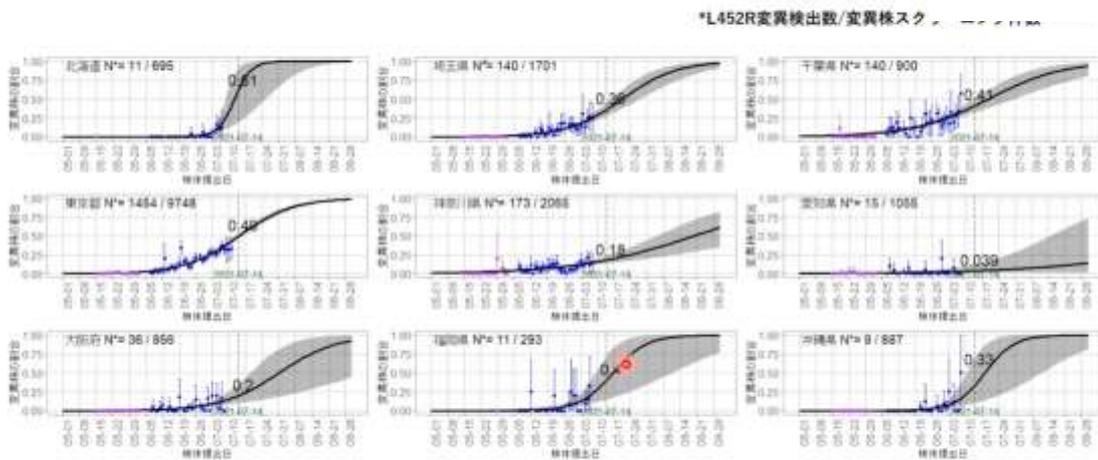
各年代別の入院患者数は公表日の入院患者数の年代別比率を用いて推計

SARS-CoV-2陽性検体に占めるL452R変異の割合：7月12日時点

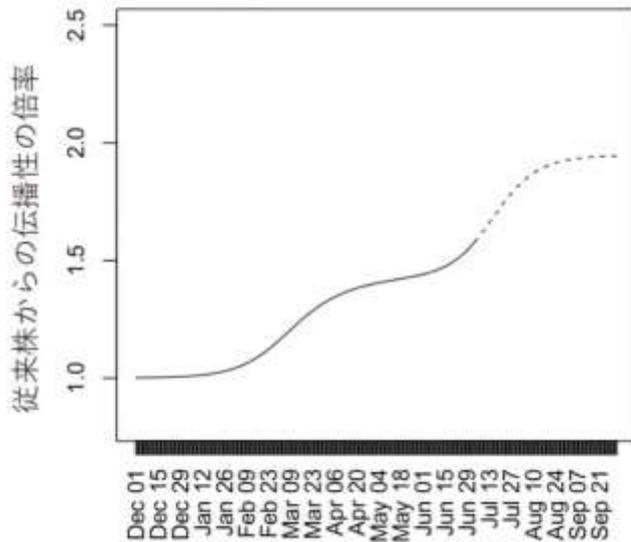


データは民間検査会社（6社）の変異株スクリーニング検査の結果を用いた。6月6日以前は原則的に各社のSARS-CoV-2陽性検体は全てNS501Y-PCR検査が実施され、NS501Y陽性検体についてL452R-PCR検査が実施された（分母は全NS501Y-PCR検査実施数）。6月7日以降は原則各社のSARS-CoV-2陽性検体は全てL452R-PCR検査が実施された（分母は全L452R-PCR検査実施数）。图中的点は検体提出日ごとのL452R変異割合の点推定値、バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。なお、スクリーニング体制の変更があったことから、6月6日以前を紫色、6月7日以降を青色で区別している。分析に際しては、最終的にすべてのウイルスがL452R変異を有するウイルスに置き換わることを前提としている。推定には不確実性があり（图中では推定ラインの95%信頼区間をグレーで示している）、今後、スクリーニング件数が増えることで値や形状が変化する可能性がある。

SARS-CoV-2陽性検体に占めるL452R変異の割合：7月12日時点（一部都道府県抜粋）



相対的な伝播力の推移 (東京)



Delta株の増加に伴い、
東京のCOVID-19の伝播性が急増中であると考えられる。

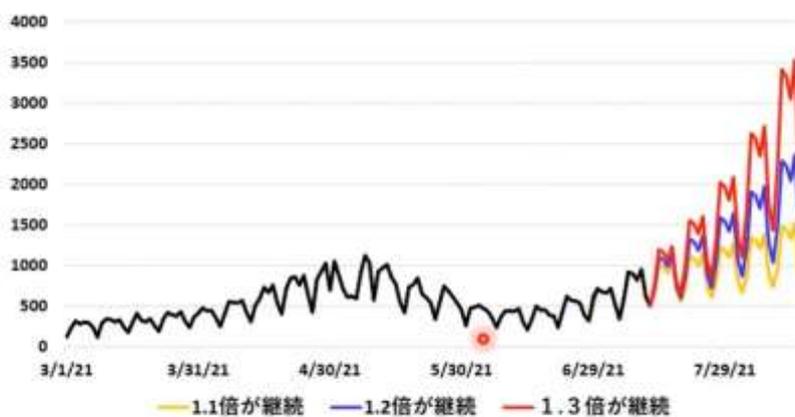
8月17日にDelta株が90%を超え、東京のCOVID-19の伝播性は従来株と比べて1.90倍、アルファ株と比べ、1.31倍となる。

AMED伊藤班(JP20fk-0108535) 共同研究
北大・伊藤公人教授の分析結果

72

報告日別感染者数の推移 (今週先週比1.1、1.2、1.3 が継続した場合)

東京都



出典：自治体公表データ 52

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00256.html?fbclid=IwAR0zjbu_M40UPGx_37d_a-y8rimus3ZsS9Pus5OwvMepZ678Rk2Pjl_qLPM